

書評

J. H. Carr, R. B. Shephard 著 横山 巖 監訳

脳卒中の運動訓練プログラム

山口 武典 (国立循環器病センター内科・脳血管部門)

訳者の序文にもあるように、脳卒中の運動療法には多くの異なった方法が用いられているが、科学的な検討によってその効果と有用性を比較したものはない。本書で提唱されているプログラムに関しても、まだその効果が客観的に検証されたものではないが、最終的にはそれを確かめることを目的に記述、出版されたものである。

著者らはシドニーの Cumberland College of Health Sciences、理学療法学部の Senior Lecturer であるが、実際に理学療法に携わりながら教育を行っているなかで、これまでの理学療法のやり方と考え方に対して生じた疑問点や問題点を、少しでも解決しようという考えの下に、テキストブックとしてまとめられている。内容は3部からなり、第1部では基本的な運動能力を再獲得するうえで、全ての脳卒中患者に共通する項目があるという考えから、“運動再学習のプログラム (MRP)” が設計された経緯と根拠が記述されている。つまり、理学療法が脳卒中のリハビリテーションの中で果たす役割は、運動のコントロールであり、これを成功させるには最適の環境をつくり出すことにあることを強調してい

る。第2部では、実際のプログラムの進め方を4段階に分けて、課題の分析、問題点の整理から、最終的な日常生活への応用まで、詳細に記述されている。第3部は数多くの文献を引用し、これまでに得られた神経生理学的な新しい知見を基に、実戦的な経験を加えてその理論が構成されており、リハビリテーションに携わる医師や理学療法士が、是非とも知っておくべき知識が要領よくまとめられている。

実際の治療者が理論的背景の下に解説しているので、評価・治療手技などが具体的かつ詳細で理解し易く、臨床の場で直ちに应用できるテキストである。また、理学療法の分野では手技のみが重視されがちであったが、本書ではより効果的な治療を行うための環境設定への配慮、患者の治療への動機付けの重要性など、これまでの理学療法のテキストに欠けていた部分が補われている点もユニークである。

今後版を重ねる毎に、本法による治療効果や他の方法と比較した成績、あるいは本法の限界などについての記述が追加されていくものと期待される。

(B5判 200頁 5,974円(税込) 1991 医学書院刊)